

合併の経緯 — 長倉村 —

◇明治の合併前後の長倉村

長倉地区は旧御前山村のうち那珂川の左岸西部に位置し、栃木県茂木町に隣接しています。村内には那珂川と茂木宇都宮街道が並行して走り、常陸・下野の交通と流通の要衝でした。

江戸時代には、小瀬方面へ北上する街道沿いに宿が発達した長倉村、その北部山間地に位置した中居村・福岡村（天保13年に中居村に合併）・秋田村、村内を東西に流れる那珂川沿いに野口と接した金井村、村域の最西端に位置する野田村の6か村がありました。

これらの村は大区小区制ではすべて第4大区6小区（明治8年）に含まれ、大区小区制廃止後の連合村制度の下では長倉村外四か村連合（長倉・野田・秋田・中居・金井）に（明治11年）、改正後は長倉村外五か村連合（長倉・国長・野田・秋田・中居・金井）に（明治17年）組み入れられました。

明治22年（1889）4月に市制・町村制が施行されると小規模の村々は連合村制時代の枠組みに近い形で合併し一村を形成しました。新しい長倉村も同様の経過で長倉・野田・秋田・中居・金井の5か村が合併して誕生し、初代村長には大森彦重郎が就任しました。



長倉支所（『広報ごぜんやま 復刻版1』）



長倉村役場跡の現況

役場は長倉宿の中央、長倉978番地（現在の消防器具置場の奥）に置かれました。役場があった場

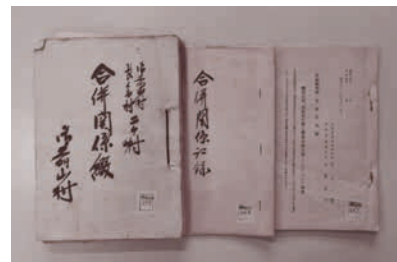
所には今は建物はありませんが、奥の石倉は役場の倉庫として使われていたものです。役場の手前の道路側には駐在所が置かれていました。

◇昭和の合併

昭和28年（1953）9月には、町村合併促進法が公布され、再び町村合併が推し進められます。ここでは町村の適正規模の具体像が示され、人口8,000人を目安とすることが示されました。

これにより、長倉村と隣接する野口村・伊勢畑村では3か村合併案の下で協議が始まりましたが、役場位置等の問題で野口村と長倉村が合意に至らず、3か村合併は決裂しました（『緒川村史』）。このため長倉村を除く2か村で昭和29年11月に合併促進協議会を設置し、対等合併とすることや所属する郡を東茨城郡とすることで合意し、翌年2月に御前山村となりました。

一方、長倉村は八里村・小瀬村との合併協議を進めていました。すでに誕生していた御前山村は東茨城郡となったため、那珂郡への編入を望む長倉村では八里村・小瀬村との合併が模索されていたようです。しかし役場位置等の問題で村民の意見が分かれ、合併は容易に運びませんでした。昭和31年7月、八里村は小瀬村との合併を決議し、同年9月に緒川村が発足しました。御前山村は合併後もなお人口等で適正規模に満たなかったため、県の提案もあり、長倉村との合併が協議されることになりました。協議会が旧野口村・旧伊勢畑村の各地区に行った調査では、合併条件が折り合わない状況から、長倉村との合併打ち切りを望む意見も出ていましたが、長倉村との議論を尽くした円満な合併を望む声が多く、昭和31年9月、御前山村と合併し、新たな御前山村が発足しました（『御前山村・長倉村二ヶ村合併関係綴』御前山村役場文書264）。



長倉村合併関係史料

【参考文献】 塙泉嶺『那珂郡郷土史』宗教新聞社 大正12年、茨城県総務部地方課編『茨城県市町村合併史』昭和33年、『御前山村郷土誌』平成2年、『広報ごぜんやま 復刻版1』御前山村 平成11年